Canon

MACRO RING LITE
MR-14EX
MACRO TWIN LITE
MT-24EX

J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンマクロリングライトMR-14EX、マクロツインライトMT-24EXは、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光システムに自動対応する近接撮影用ストロボです。

● **カメラの使用説明書もあわせてお読みください。**
ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

● **基本操作は通常のAE撮影同様、簡単です。**
MR-14EX、MT-24EXをEOSカメラに装着したとき、**ストロボ撮影の自動露出制御のほぼすべては、装着したカメラによって行われます。**
この仕組みは、ストロボ内蔵式カメラの場合なら、どなたでもご理解いただけると思いますが、MR-14EX、MT-24EX装着時も「内蔵ストロボの代わりに近接撮影用ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

● **各カメラの調光方式（E-TTL II/E-TTL/TTL）に自動対応します。**
装着したカメラのストロボ制御方式に従い、次の調光方式で自動制御されます。
① E-TTL II 自動調光（プリ発光記憶式評価調光/レンズの距離情報活用を含む）
② E-TTL自動調光（プリ発光記憶式評価調光）
③ TTL自動調光（フィルム面反射測光のリアルタイム調光）

各カメラに装着したときの調光方式につきましては、カメラの使用説明書を参照してください。主な仕様『外部ストロボ』の項目に明記されています。

なお、カメラの使用説明書のストロボ撮影の章では、便宜上、上記の**①②をAタイプカメラ**（注：E-TTL II あるいはE-TTL対応カメラ）、**③をBタイプカメラ**（注：TTL対応/E-TTL II 、E-TTL未対応カメラ）と表記しています。

＊ **本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。**
Bタイプカメラとの組み合わせにつきましては、41ページを参照してください。

目　次

本使用説明書上のおことわり

- 本書は、MR-14EX、MT-24EXの2機種共通の使用説明書です。基本はMR-14EXをベースに説明しています。MT-24EXをご使用の方は MT-24EX の部分をお読みください。
- 本書では、カメラとストロボの電源スイッチが入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、ストロボやカメラ本体に表示されている絵文字を使用しています。
- （⏱8）／（⏱16）マークはボタンから指を離しても、その状態がタイマーの働きにより8秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上の注意』をお読みください。
- （p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
- 本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

  ❗：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

  📝：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

各部の名称

MR-14EX

発光部

接続コード

発光部B（p.21）

フォーカシングランプ（p.8）

着脱ボタン（p.12）

着脱ボタン（p.12）

発光部A（p.21）

フォーカシングランプ（p.8）

発光部背面

〈A〉表示（p.21）

〈B〉表示（p.21）

MT-24EX

発光部

フード取り付け部（p.15）
接続コード
回転ボタン（p.13）
着脱ボタン（p.12、13）
フォーカシングランプ（p.8）
MACRO TWIN LITE MT-24EX ø58mm
発光部B（p.21）
発光部A（p.21）
取り付け台座（p.12、13）
取り付けリング（p.12、13）
基準位置指標（p.13）（垂直方向）
フィルター取り付けねじ部（p.15）（φ58mm）

発光部背面

取り外しレバー
〈A〉表示（p.21）
〈B〉表示（p.21）

発光部側面/底面

・基準位置指標（水平方向）
・角度設定目盛（p.13、14）
取り付け脚（p.12）
三脚ねじ穴

制御部

〈MODE〉ストロボモードボタン（p.18、27、33）

〈ϟH〉ハイスピードシンクロ（FP発光）ボタン（p.26）

〈▷▶〉シンクロタイミング切換えボタン（p.26）

*〈＋〉プラスボタン

*〈－〉マイナスボタン

*〈☼〉表示パネル照明ボタン（p.8）

〈C.Fn〉カスタム機能設定ボタン（p.28）

表示パネル（p.8）

*〈SEL/SET〉選択/設定ボタン

〈◁〉ボタン

〈▷〉ボタン

〈LAMP〉フォーカシングランプボタン（p.8）

〈CH.〉チャンネルボタン（p.33）

〈PILOT〉
パイロットランプ（p.18）
テスト発光ボタン（p.18）

〈RATIO〉
光量比制御・発光部切り換えボタン（p.21、27、33）

電源スイッチ（p.18）

締め付けねじ（p.11）

調光確認ランプ（p.18）

取り付け脚（p.11）

電池室ふた（p.10）

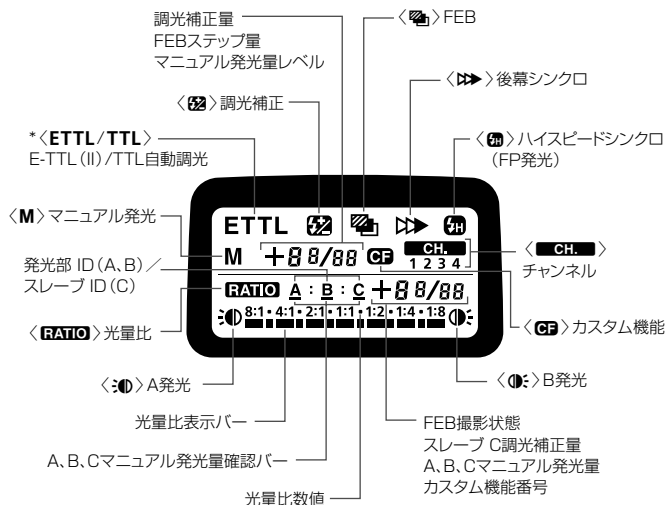
接点

外部電源端子

取り付け脚ロックピン（p.11）

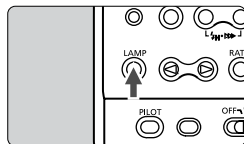
* 印のボタンを押すと、タイマーの働きによりボタンから指を離してもその状態が8秒間保持されます。〈☼〉の照明は12秒間保持されます。

表示パネル

調光補正量
FEBステップ量
マニュアル発光量レベル
〈 〉FEB
〈 〉後幕シンクロ
〈 〉調光補正
*〈**ETTL/TTL**〉
E-TTL(II)/TTL自動調光
〈 〉ハイスピードシンクロ
(FP発光)
〈**M**〉マニュアル発光
ETTL
M +88/88 CF CH. 1 2 3 4
RATIO A : B : C +88/88
8:1 • 4:1 • 2:1 • 1:1 • 1:2 • 1:4 • 1:8
〈 CH. 〉
チャンネル
発光部 ID(A、B)/
スレーブ ID(C)
〈 RATIO 〉光量比
〈 CF 〉カスタム機能
〈 〉A発光
〈 〉B発光
光量比表示バー
FEB撮影状態
スレーブ C調光補正量
A、B、Cマニュアル発光量
カスタム機能番号
A、B、Cマニュアル発光量確認バー
光量比数値

- 〈 〉 ボタンを押すと、表示パネルが照明されます。
- 表示は状況に応じた部分のみ表示されます。

* E-TTL II対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈**ETTL**〉と表示されます。

フォーカシングランプ

LAMP
RATIO
PILOT
OFF

〈LAMP〉ボタンを押すと、フォーカシングランプが約20秒間点灯しピント合わせが容易になります。〈LAMP〉ボタンをもう一度押すと、消灯します。なお、点灯状態で撮影すると、露出アンダー(露出不足)になることがあります。ご注意ください。

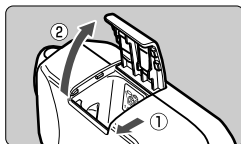
1

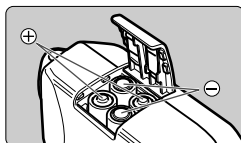
使用前の準備

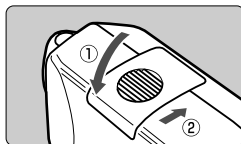
ストロボ発光部の発熱と劣化を防ぐため、通常撮影の連続発光は20回までとしてください。20 回連続発光したときは、10分以上休止してください。また、マニュアル発光時の連続発光は下表の回数以下とし、同様に休止してください。

発光量	1/1	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64
回数	15		20		40		

電池を入れる

単3形電池を4本使用します。

1 ふたを開ける

● 電池室ふたを矢印の方向にスライドさせたあと、ふたの端を持ち上げます。

2 電池を入れる

● 表示にしたがって、「+」「—」をまちがえないように電池を入れます。

3 ふたを閉じる

● ふたを戻し、押さえながらスライドさせます。

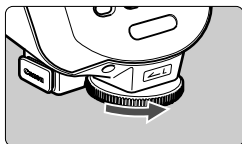
発光間隔と発光回数

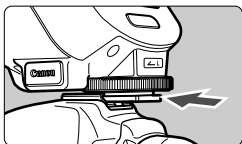
電源の種類	発光間隔	発光回数
単3形アルカリ乾電池	約0.1～7秒	約120～800回

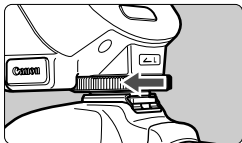
● 新品電池使用、当社試験基準によります。
● 両側発光、片側発光とも同じです。
● MR-14EX、MT-24EXとも同じです。

電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。

● アルカリ電池以外の単3形電池は、接点形状が規格で統一されていないため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。
● 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

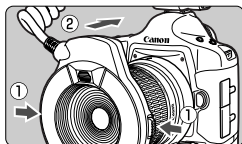
制御部を取り付ける

1 ねじをゆるめる

- 締め付けねじを矢印の方向に回して、十分にゆるめます。

2 取り付ける

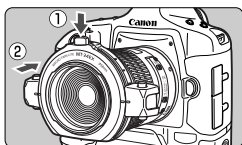
- ストロボの取り付け脚が、アクセサリーシューの奥に突き当たるまで差し込みます。

3 固定する

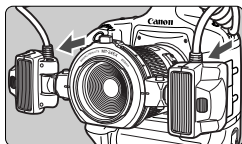
- 締め付けねじを矢印の方向に回すと、取り付け脚からロックピンが出て固定されます。
- 取り外すときは、ロックピンが解除されるまで締め付けねじを十分にゆるめて、カメラから外します。

発光部を取り付ける

MR-14EX

着脱ボタンを押しながら、レンズ先端に取り付ける

- 確実に取り付いていることを確認します。
- 発光部を回転させることができます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

MT-24EX

1 着脱ボタンを押しながら、レンズ先端に取り付ける

- 着脱ボタンが真上になるようにします。
- 確実に取り付いていることを確認します。

2 発光部A、Bを取り付け台座に取り付ける

- 「カチッ」と音がするまで取り付け脚に押し込みます。
- 取り外しは、取り外しレバー（p.6）を押して行います。

- EF180mm F3.5L マクロ USMをお使いの方へ
  マクロライトアダプター 72C（別売）が必要です。レンズのフィルター取り付け部に、マクロライトアダプター72Cをねじ込んでから発光部を取り付けてください
- 取り付けリングを回転させるときは、必ず着脱ボタンを押しながら回します。
- EF180mm F3.5L マクロ USM使用時、マクロライトアダプター 72Cが、レンズのフィルター取り付け部に食い込んで外れなくなった場合は、着脱ボタンを押さず取り付けリングをレンズに密着させながら、アダプターを外す方向に回してください。

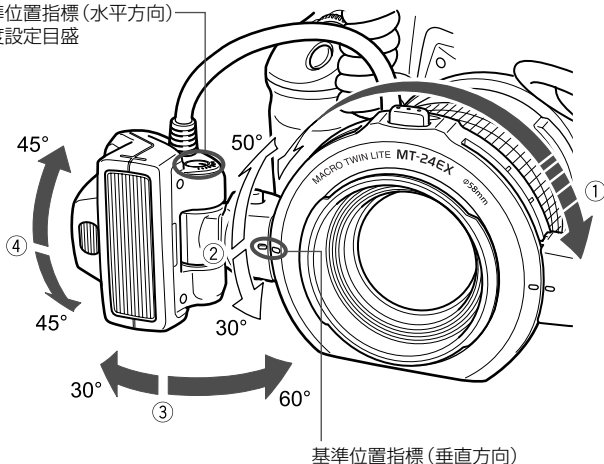
MT-24EX 発光部を設定する

発光部の設定範囲

MT-24EXは、使用するレンズ、被写体の位置などに応じて発光部を下図の範囲内で任意に設定することができます。

・基準位置指標（水平方向）
・角度設定目盛

45°
50°
①
④
②
45°
30°
30°
60°
③
MACRO TWIN LITE MT-24EX φ58mm

基準位置指標（垂直方向）

①回転ができます。必ず着脱ボタンを押しながら、取り付けリングを回転させ、任意の位置でボタンを離します。

②回転ボタンを押しながら、取り付け台座を回転させます。

③④は発光部を直接動かします。

- 発光部の角度設定範囲を超えて無理に動かさないでください。発光部が取り付け台座から外れて脱落するおそれがあります。
- カメラとレンズの組み合わせによっては発光部の設定範囲に制限を受ける場合があります。

発光部設定の目安

マクロレンズ使用時の各撮影倍率における発光部設定角度の目安は次の通りです。発光部の側面にある角度設定目盛（15°間隔）を利用して、発光部A、Bを同角度に設定してください。表内の角度は発光部基準位置指標（水平方向）から内側への設定角度です。

レンズ	撮影倍率	発光部内向き設定角度				
		60°	45°	30°	15°	0°
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ	1：2		●	●		
	1：2.5〜1：3			●		
	1：4			●	●	
	1：5〜1：6				●	
	1：8				●	●
	1：10					●
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ +ライフサイズ コンバーター EF	1：1		●			
	1：1.2		●	●		
	1：1.5〜1：2			●		
	1：4				●	
EF100mm F2.8 マクロ USM	1：1〜1：1.5			●		
	1：2			●	●	
	1：3				●	
	1：5					●
EF100mm F2.8 マクロ	1：1		●			
	1：1.5			●		
	1：2			●	●	
	1：2.5〜1：3				●	
	1：4					●
EF180mm F3.5L マクロ USM	1：1			●	●	
	1：1.2〜1：1.5				●	
	1：2〜1：10					●
MP-E65mm F2.8 1-5 × マクロフォト	5×〜2×	●				
	1×		●			
EF-S60mm F2.8 マクロ USM	1：1〜1：1.5		●			
	1：2			●		
	1：3			●	●	
	1：5				●	

フィルターの使用について

MR-14EX

レンズ	フィルター
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ EF100mm F2.8 マクロ EF180mm F3.5L マクロ USM EF-S60mm F2.8 マクロ USM	レンズに直接フィルターを取り付けて使用することができます。
EF100mm F2.8 マクロ USM MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト	フィルターを取り付けることができません。

MT-24EX

レンズ	フィルター
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ	レンズに直接フィルターを取り付けて使用することができます。 注意：取り付けリングのフィルター取り付けねじ部にφ58mmフィルターを取り付けないでください。レンズ先端と干渉します。
EF100mm F2.8 マクロ USM EF180mm F3.5L マクロ USM EF100mm F2.8 マクロ EF-S60mm F2.8 マクロ USM MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト	取り付けリングのフィルター取り付けねじ部にφ58mmフィルターを取り付けて使用することができます。

フードの使用について

MR-14EX

・MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォトに別売の専用フードを使用する場合は、先にフードを取り付けたあと、発光部を取り付けてください。

・その他のレンズで、フードの取り付けはできません。

MT-24EX

・MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォトに別売の専用フードを取り付ける場合は、先にフードを取り付けたあと、取り付けリングを付けてください。なお、フードを取り付けると、フィルター取り付けねじ部にφ58mmフィルターを付けることはできません。

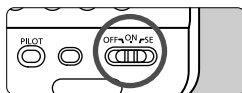
・EF100mm F2.8 マクロ USM使用時、取り付けリングのフード取り付け部にET-67を装着することができます。定常光撮影で利用してください。ストロボ撮影ではストロボ光がさえぎられます。

2

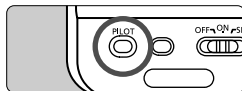
ストロボ撮影

近接撮影の適正露出の決定は、被写体条件が大きく影響します。したがって同じ被写体に対し、できるだけ露出を変えて撮影しておくことをおすすめします。（p.24）

カメラ設定の初期化機能を備えたEOSカメラでは、カメラ設定を初期化すると、カスタム機能を除くストロボ設定も初期状態にすることができます。

電源を入れる

1 電源を入れる

● 電源スイッチを〈ON〉または〈SE〉にします。

➡ 充電を開始します。

2 充電を確認する

● パイロットランプの状態が、消灯→赤色（フル充電）の順に変わります。

➡ パイロットランプを押すと、テスト発光します。

● 〈SE〉（Save Energy）は、電池消耗を防ぐため、90秒間何も操作しないと、自動的に電源が切れる設定です。再度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。

● テスト発光は、カメラの⏲4、⏲6タイマーが働いているときはできません。

● ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時にも設定状態を保持したい場合は、電源スイッチを切った後、1分以内に電池を交換してください。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈**P**〉（プログラムAE）、または〈□〉（全自動）にすると、〈**P**〉、〈□〉でのAE撮影と同じ操作で、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。

1 ストロボを〈ETTL〉に設定する

● 〈MODE〉ボタンを押して、〈**ETTL**〉を表示させます。

2 撮影する

● ピントを合わせ、ファインダー内の〈ϟ〉マークを確認してから撮影します。

➡ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。

撮影モード別自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈**Av**〉(絞り優先AE)、〈**M**〉(マニュアル露出)、に設定するだけで、E-TTL II/E-TTL自動調光による本格的なマクロストロボ撮影を行うことができます。

〈Av〉絞り優先AE

被写界深度を考慮したストロボ撮影や、被写体も背景も標準露出にしたストロボ撮影ができます。絞り数値は自分で設定し、シャッター速度（30〜1/X秒*）は背景が標準露出になるよう自動設定されます。撮影は設定した絞り数値を基準としたE-TTL II/E-TTL自動調光で行われます。

- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が点滅する時は、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するよう設定を変更してください。

〈M〉マニュアル露出

シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度（buLb、30〜1/X秒*）と絞り数値によって変わります。

- 〈**Tv**〉(シャッター優先AE）で、任意のシャッター速度（30〜1/X秒*）を設定すると、絞り数値がカメラにより自動設定されます。ただし、絞り数値が任意に設定できないためおすすめできません。
- 〈**DEP**〉、〈**A-DEP**〉で撮影すると、〈**P**〉と同じ撮影結果となります。

* 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

調光連動範囲

MR-14EX

MR-14EXの調光連動範囲の目安は次のとおりです。

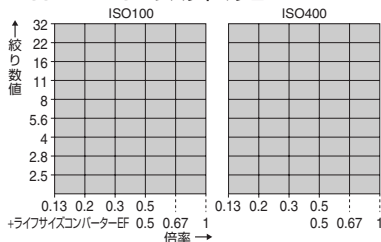
EF50mm F2.5 コンパクトマクロ

ISO100　ISO400

↑絞り数値　32　22　16　11　8　5.6　4　2.8　2.5

0.13　0.2　0.3　0.5

+ライフサイズコンバーターEF　0.5　0.67　1

倍率 →

EF100mm F2.8 マクロ USM/
EF100mm F2.8 マクロ

ISO100　ISO400

↑絞り数値　32　22　16　11　8　5.6　4　2.8

0.33　0.5　0.7　1

倍率 →

MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト

ISO100　ISO400

↑絞り数値　16　11　8　5.6　4　2.8

1　2　3　4　5

倍率 →

EF-S60mm F2.8 マクロ USM

ISO100　ISO400

↑絞り数値　32　22　16　11　8　5.6　4　2.8

0.25　0.33　0.5　0.67　1

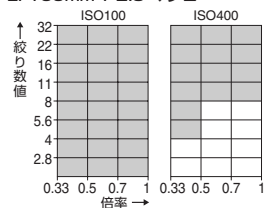
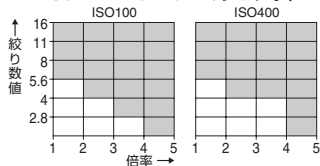
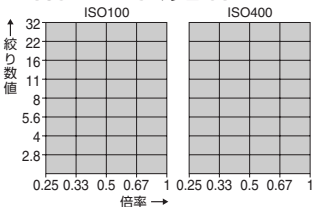
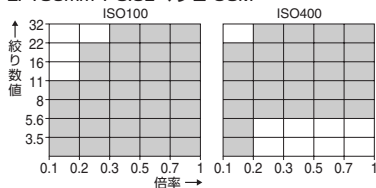
倍率 →

EF180mm F3.5L マクロ USM

ISO100　ISO400

↑絞り数値　32　22　16　11　8　5.6　3.5

0.1　0.2　0.3　0.5　0.7　1

倍率 →

：調光連動範囲

MT-24EX

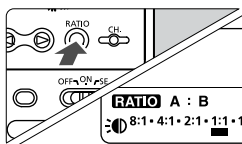
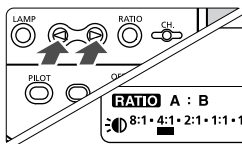
MT-24EXの調光連動範囲は、発光部の設定位置によりその範囲が大きく異なります。

最短撮影距離で撮影するときは、絞りを開放から3段程度（ISO100）絞って撮影してください。

光量比を設定する

発光部A、Bの発光量の比率（光量比）を変化させたり、発光部A、Bのどちらか片側のみを発光させることで、被写体に陰影をつけた立体感のある写真を撮影することができます。設定できる光量比レベルは、1/2段ステップ・1：8～1：1～8：1（13段階）です。

A：B＝1：1　A：B＝4：1　Aのみ発光　Bのみ発光

1 〈RATIO A：B〉を選択する

- 〈RATIO〉ボタンを押して、〈RATIO A：B〉を表示させます。

2 光量比を設定する

- 〈◁〉〈▷〉で1：8～1：1～8：1から選択します。端の位置では、片側発光になります。

➡ 〈A側〉：〈A〉のみ発光
〈B側〉：〈B〉のみ発光

- 露出は自動制御されますので、面倒な露出計算の必要はありません。
- 発光モードが〈**M**〉のときは、27ページを参照してください。

● 光量比目盛の ■ の比率は、次の（　）内の通りです。

8:1 • 4:1 • 2:1 • 1:1 • 1:2 • 1:4 • 1:8

(5.6:1) (2.8:1) (1.4:1) (1:1.4) (1:2.8) (1:5.6)

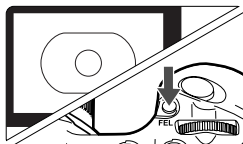
● 光量比を段数換算すると、3：1〜1：1〜1：3に相当します。
● 〈RATIO〉が表示されていない状態で撮影すると、発光部A：Bが同じ光量で発光します。
● 次の機種では、光量比制御はできません。同じ光量の両側発光、または片側発光での撮影となります。
EOS 55、NEW EOS Kiss、EOS IX E、EOS IX 50、EOS 3000、EOS Kiss III、EOS Kiss III L

モデリング発光

絞り込みボタンのあるカメラでは、そのボタンを押すとストロボが１秒間連続発光します。これをモデリング発光といいます。被写体の影の出かたや、ライティングのバランス確認に有効です。モデリング発光は、ワイヤレス増灯撮影状態でも使用できます。

FEL FE ロック

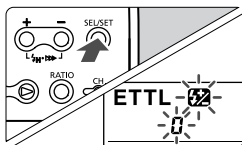
FE（Flash Exposure）ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。
表示パネルに〈ETTL〉が表示されている状態で、カメラの〈FEL〉ボタンを押します。〈FEL〉ボタンのないカメラは〈✱〉ボタンを押します。

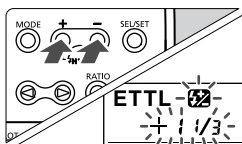
1 被写体にピントを合わせる

2 〈FEL〉ボタンを押す（⏱16）

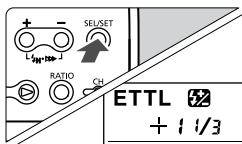
● 被写体をファインダー中央において〈FEL〉ボタンを押します。
➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
➡ ファインダー内にFEL表示が0.5秒間表示されます。
● 〈FEL〉ボタンを押すたびにプリ発光し、更新されます。

● 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときはファインダー内の〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて再度FEロックを行います。
● 表示パネルに〈ETTL〉が表示されていない状態では、FEロックできません。
● ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られない場合があります。

⚡± ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段の範囲です。

1 〈⚡±〉を選択する

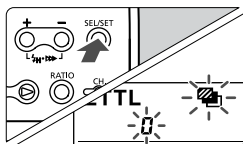
- 〈SEL/SET〉ボタンを押して、〈⚡±〉を表示します。
- ➡〈⚡±〉と補正量が点滅します。

2 補正量を設定する

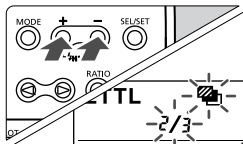
- 〈＋〉〈－〉ボタンを押して補正量を設定します。
- 調光補正を解除するときは補正量を「0」に戻します。

3 〈SEL/SET〉ボタンを押す

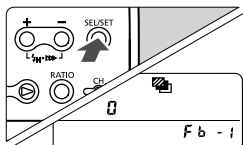
- ➡ 調光補正が設定されます。

- ストロボとカメラの両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の設定が優先されます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は、1/2段ステップで調光補正が行われます。

FEB

1/3段ステップ±3段の範囲で、ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB（Flash Exposure Bracketing）撮影といいます。

1 〈 〉を選択する

- 〈SEL/SET〉ボタンを押して、〈 〉を表示します。
- ➡ 〈 〉と補正量が点滅します。

2 補正量を設定する

- 〈+〉〈−〉ボタンを押して補正量を設定します。

3 〈SEL/SET〉ボタンを押す

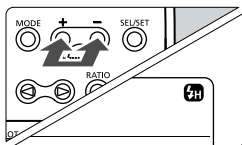
- ➡ FEBが設定されます。

- FEB撮影では、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、必ず充電を確認してから撮影してください。
- FEB とカメラ側操作による調光補正を組み合わせて撮影することはできません。

- 3コマ撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEロックやストロボ側の調光補正と組み合わせて撮影することができます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は、1/2段ステップでFEBが行われます。

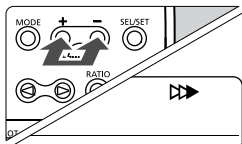
ϟH ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ（FP発光）を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。

〈ϟH〉を選択する

- 〈＋〉〈ー〉ボタンを同時に押して、〈ϟH〉を表示させます。
- ファインダー内で〈ϟH〉の点灯を確認します。

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定した場合は、ファインダー内に〈ϟH〉は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、〈＋〉〈ー〉ボタンを同時に押して〈ϟH〉を消します。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほど、ストロボ光の到達距離が短くなります。

▷▶ 後幕シンクロ

低速シャッター速度設定時に、光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。

〈▷▶〉を選択する

- 〈＋〉〈ー〉ボタンを同時に押して、〈▷▶〉を表示します。

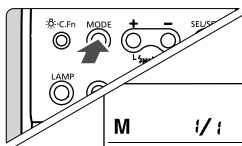
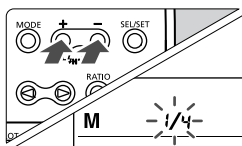
- カメラの撮影モードを「**buLb**」にすると後幕シンクロ撮影しやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは、〈＋〉〈ー〉ボタンを同時に押して〈▷▶〉を消します。
- E-TTL II/E-TTL撮影では、低速シャッター時にもストロボが2回発光します。1回目の発光はプリ発光ですので、故障ではありません。

M マニュアル発光

フル発光（1/1）から1/64発光まで、発光量を1段ステップで設定することができます。発光形態は、①A、Bとも同じ光量での発光 ②発光部A、Bで光量の異なる発光 ③片側発光の3通りがあります。
あらかじめ、テスト撮影を行って露出を確認をしてください。

発光部A、Bとも同じ光量での発光

1 〈M〉を選択する

● 〈MODE〉ボタンを押して、〈M〉を表示します。

2 発光量を設定する

● 〈SEL/SET〉ボタンを押します。
➡ 発光量が点滅します。
● 〈＋〉〈－〉ボタンを押して発光量を設定します。
➡ 押すごとに、発光量が1段ステップで増減します。
● 〈SEL/SET〉ボタンを押します。
➡ 発光量が点灯します。

発光部A、Bで光量の異なる発光

手順2で次の操作をすると、発光部A、Bで光量が異なる発光になります。

1 〈RATIO〉ボタンを押して〈RATIO A：B〉を表示させる

2 発光部を選択する

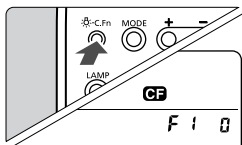
● 〈◁〉ボタンで〈A〉、〈▷〉ボタンで〈B〉が選択されます。

3 発光量を設定する

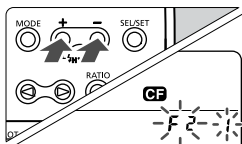
● 〈＋〉〈－〉ボタンを押して発光量を設定します。
● 〈－〉ボタンを押して発光量を「－－」にすると、片側発光になります。
➡ 「1/64」の次が「－－」です。「－－」に設定した発光部は発光しません。

C.Fn カスタム機能の設定

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

1 〈CF〉を表示する

● 〈☼·C.Fn〉ボタンを2秒以上押します。

2 カスタム機能番号を選択する

● 〈SEL/SET〉ボタンを押すと、カスタム機能番号と選択番号が点滅します。さらに、〈SEL/SET〉ボタンを押してカスタム機能番号を選びます。

3 設定する

● 〈＋〉〈－〉ボタンを押し、「0」か「1」を選び、〈SEL/SET〉ボタンを押します。

➡ 点灯表示に変わり設定が終了します。

➡ 〈☼·C.Fn〉ボタンまたは、〈MODE〉ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn	項目	番号	設定・変更内容
1	FEBの自動解除	0	する
		1	しない
2	FEBの撮影順序	0	標準→マイナス→プラス
		1	マイナス→標準→プラス
3	調光方式	0	E-TTL II/E-TTL自動調光
		1	TTL自動調光
4	テスト発光ボタン	0	E-TTL II/E-TTL自動調光時 :フル発光 マニュアル発光：設定値で発光
		1	均一モデリング発光
5	ワイヤレス制御	0	スレーブCのみ
		1	スレーブA、B、C
6	モデリング発光	0	する
		1	しない
7	外部電源使用時の充電条件	0	ストロボ本体と外部電源両方で充電
		1	外部電源のみで充電
8	光量比制御の設定ステップ	0	1/2段
		1	1段
9	フォーカシングランプ点灯/消灯	0	フォーカシングランプボタン使用
		1	シャッターボタンダブルクリック

*** C.Fn-8、C.Fn-9は、MT-24EX専用のカスタム機能です。**

C.Fn-4：1を設定すると、自動調光時に両側発光を選択したときは、発光部A、Bは常に同じ光量でモデリング発光します。マニュアル発光時は、発光量の設定比率に応じたモデリング発光になります。

C.Fn-5：1を設定すると、スレーブのIDをAまたはBに設定したスレーブを、マスターの発光部A、Bに増灯してグループ発光させることができます。

C.Fn-6：1を設定すると、カメラの絞り込みボタンを押すことで、被写界深度確認ができます。モデリング発光は行いません。

C.Fn-7：外部電源併用時のストロボ充電は、内部電源と外部電源を使用した並列充電を行いますが、この場合、内部充電が先に消耗して撮影できなくなくなることがあります。1を設定すると、外部電源のみでストロボ充電を行うため、内部電源の消耗を抑えることができます。なお、1に設定しても本体側の電池はストロボ制御に必要ですので、必ず入れてください。

C.Fn-9：1を設定すると、シャッターボタンの半押しダブルクリックでフォーカシングランプの点灯/消灯を行うことができるようになります。撮影時に両手がふさがっている場合に有効です。

- C.Fn-3-1は、主にEOS-1シリーズのフィルムカメラを前提にしたカスタム機能です。EOSデジタルカメラ及び、EOS Kiss 7使用時には設定しないでください。設定すると、機種によって、発光しなかったり常時フル発光になるなど、正しい制御が行われません。
- Aタイプカメラで、C.Fn-3-1を設定すると、自動調光によるワイヤレスストロボ撮影はできません。
- C.Fn-5-1を設定すると片側発光ができなくなります。
- C.Fn-9-1設定時は、シャッターボタンの押し方に注意してください。特にAF撮影でピント合わせのために短い間隔でシャッターボタンの半押しを繰り返すと、不用意にフォーカシングランプが点灯/消灯することがあります。また、AEロックボタン、絞り込みボタンのダブルクリック時、および、同ボタンを組み合わせて短い間隔で連続して押した時も同様になります。

Bタイプカメラでは、C.Fn-3-0を選択してもE-TTL II/E-TTL自動調光撮影にはなりません。

3

ワイヤレス増灯撮影

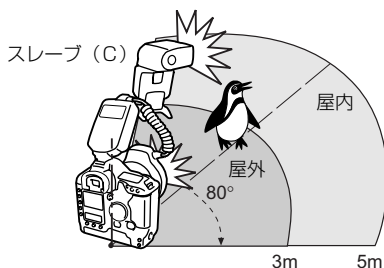
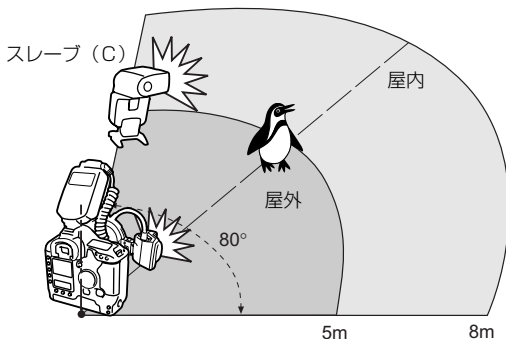
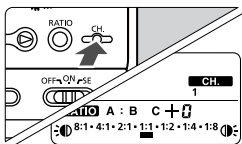
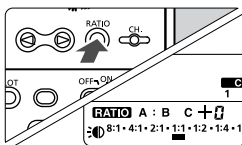
スレーブ機能を備えたEXシリーズストロボと併用すると、通常のE-TTL II自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス増灯撮影を簡単に行うことができます。

ワイヤレス増灯撮影

ワイヤレス増灯撮影の概要

マクロストロボのワイヤレス増灯撮影の基本配置は、下図のように、マスター（発光部A、B）とスレーブ（C）で構成します。スレーブ（C）は、被写体の影を消したり、アクセントライトとして使用します。
露出は、マスターの発光部A、Bの光量の和で標準露出、スレーブ（C）は、単体で標準露出となるよう自動制御されます。

MR-14EX

スレーブ（C）
屋内
屋外
80°
3m
5m

MT-24EX

スレーブ（C）
屋内
屋外
80°
5m
8m

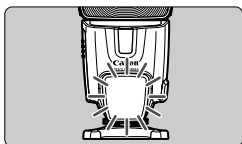
1 MR-14EX、MT-24EXをマスターに設定する

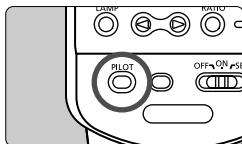
- 〈MODE〉ボタンを押して、〈**ETTL**〉を選択します。
- 〈RATIO〉ボタンを押して、〈**RATIO A：B C**〉を選択します。
- ➡〈**CH.**〉が表示されます。
- 〈CH.〉ボタンを押して、通信チャンネルを1〜4chから選択します。

2 スレーブの設定をする

- 通信チャンネルをマスターに合わせます。
- IDを〈**C**〉に設定します。
- 設定方法は、各機種の使用説明書を参照してください。

3 スレーブを配置する

- スレーブ（C）の受信部をマスター側に向けてください。
- マスターとスレーブ（C）の間に障害物を置かないでください。

4 充電を確認する

- スレーブ（C）の充電が完了すると、AF補助光が1秒間隔で点滅します。

5 作動を確認する

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ➡ マスターとスレーブ（C）が発光します。
- スレーブが発光しない場合は、配置角度と距離をマスター寄りに変更してください。

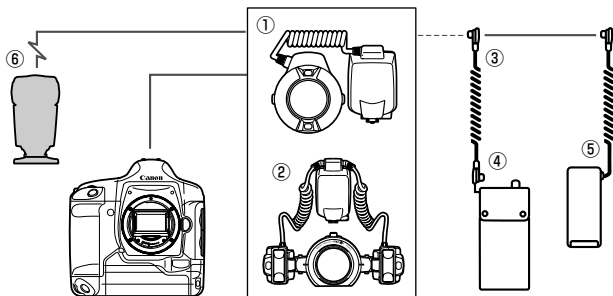
- ワイヤレス増灯撮影では、マスターの発光部A、Bを片側発光にした撮影はできません。
- 次の機種では、〈**ETTL**〉設定時にスレーブ（C）を使用したワイヤレス増灯撮影はできません。
  EOS 55、NEW EOS Kiss、EOS IX E、EOS IX 50、EOS 3000、EOS Kiss III、EOS Kiss III L

- 発光部A、Bの光量比設定は、通常撮影と同じです。21ページの『光量比を設定する』を参照してください。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったとき、マスターをテスト発光するとスレーブの電源が入ります。
- 撮影時にスレーブも〈**ETTL**〉に自動設定されます。
- **ワイヤレス増灯撮影における応用機能**
  次の機能は、スレーブ側を操作することなく、通常撮影同様に使用することができます。
  ・FEロック　・調光補正　・FEB　・ハイスピードシンクロ（FP発光）
- **C.Fn-5-1設定による高度なワイヤレス増灯撮影**
  ・IDをA、Bに設定したスレーブ増灯自動調光撮影。
  ・発光部A、発光部B、スレーブCにそれぞれ発光量を設定したワイヤレス多灯マニュアル撮影。
  詳細については、「スレーブ機能を備えたEXシリーズスピードライト」の使用説明書を参照してください。

4

資料

MR-14EX/MT-24EXのシステム

①
②
③
④
⑤
⑥

① マクロリングライトMR-14EX
② マクロツインライトMT-24EX
③ コネクティングコードEL
④ 積層パックE315
積層電池を収納して使用する外部電源です。短いリサイクルタイムでストロボ撮影ができます。コネクティングコードELが付属しています。
⑤ コンパクトバッテリーパックCP-E3
携帯性に優れた小型軽量の外部電源です。単3形アルカリ乾電池8本、または単3形ニッケル水素電池を8本使用します。単3形リチウム電池も使用できます。
⑥ スレーブ機能付きEXシリーズスピードライト

外部電源は必ず上記の④⑤をお使いください。キヤノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因となることがあります。

故障かな？とお考えになる前に

●ストロボが発光しない

- 制御部がしっかりカメラに取り付いていない。
  → 制御部の取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.11)
- 制御部とカメラの接点部分が汚れている。
  → 接点部分を清掃する。(p.11)
- 制御部本体に電池が入っていない。
  → 本体にも電池を入れる。(p.10)
- 制御部本体の電池が消耗している。
  → 本体の電池を新品電池に交換する。(p.10)

●ストロボの露出がアンダー、またはオーバーになる

- 調光補正が設定されている。
  → 調光補正を解除する。(p.24)

●片側発光ができない

- カスタム機能C.Fn-5-1が設定されている。
  → C.Fn-5-0に設定する。(p.29)
- 〈**RATIO A：B：C**〉(RATIO_A：B：C) が設定されている。
  →〈**RATIO A：B**〉にする。(p.21、27)

●電源が勝手に切れる

- 電源スイッチがSEになっている。
  → 電源スイッチを〈ON〉にするか、テスト発光ボタンを押す。(p.18)

●ワイヤレス増灯撮影ができない

- カスタム機能C.Fn-3-1が設定されている。
  → C.Fn-3-0に設定する。(p.29)

●スレーブが発光しない

- スレーブのワイヤレスセレクターが〈SLAVE〉になっていない。
  → スレーブに設定する。(p.33)
- スレーブが正しく配置されていない。
  → マスターの通信範囲内に設定しなおす。(p.32)
  → スレーブの受信部をマスター方向に向ける。(p.33)

主な仕様

マクロリングライトMR-14EX

■形式

形式.................................... クリップオンタイプE-TTL II/E-TTL/TTL自動調光・近接撮影専用リング式ストロボ
使用カメラ .... EOS・Aタイプカメラ（E-TTL II/E-TTL自動調光）
EOS・Bタイプカメラ（TTL自動調光）
ガイドナンバー .... 14（ISO100・m）
照射角................................ 上下約80°、左右約80°
閃光時間............................ 1.4ms以下

■露出制御

露出制御方式 ....E-TTL II/E-TTL/TTL 自動調光・マニュアル発光
調光連動範囲 ....通常発光：約20mm～5m
（ISO100、F2.8 レンズ使用時） ハイスピードシンクロ：約20mm～2.2m
発光形態.............................両側発光/片側発光
光量比制御 .... 1：8～1：1～8：1、1/2段ステップ
調光補正............................ 手動、FEB：1/3段ステップ±3段（手動・FEB併用可能）
FEロック ....〈FEL〉ボタン、または〈✱〉ボタンによる
ハイスピードシンクロ......可能
調光確認.............................調光確認ランプ点灯
フォーカシングランプ......照射角：上下約40°、左右約45°
点灯時間：約20秒

■ストロボ充電

充電時間/充電表示.............. 約0.1～7秒/赤色パイロットランプ点灯

■ワイヤレスストロボ機能

通信方式.............................光パルス
チャンネル数 4
送信角.................................照射角に準ずる
通信可能距離 ....屋内：約20cm～5m、屋外：約20cm～3m
（スレーブ正対位置）
スレーブ制御数 .... A、B、C、3グループ
モデリング発光 .... カメラの絞り込ボタンによる

■カスタム機能 .... 7種類（14項目）

■電源

本体電源.............................単3形アルカリ乾電池4本
発光可能回数 ....約120～800回（単3形アルカリ乾電池使用時）
節電機能.............................90秒放置で電源切

外部電源............................コンパクトバッテリーパックCP-E3
積層パックE315

■大きさ............................制御部：74（幅）× 125.9（高さ）×97.4（奥行）mm
発光部：112.8（幅）× 126（高さ）× 25.6（奥行）mm

■質量................................約430ｇ（本体のみ、電池別）

マクロツインライトMT-24EX

*MR-14EXとの相違点のみを記載しています。

■形式

形式....................................クリップオンタイプE-TTL II/E-TTL/TTL自動調光・近接撮影専用ツイン式ストロボ
照射角.................................上下約70°、左右約53°（発光部基準位置 /片側）
発光部可動角.....................基準位置より
垂直方向：上方45°（22.5°間隔）/下方45°（22.5°間隔）
水平方向：内側60°（15°間隔）/外側30°（15°間隔）
取り付けリング上の回転：上方50°（5°間隔）/
下方30°（5°間隔）
最大ガイドナンバー..........両側発光：24/片側発光：26（ISO100・m）

■露出制御

調光連動範囲.....................ノーマル発光・両側：約20mm～8.6m/
（ISO100、 片側：約20mm～9.3m
F2.8レンズ使用時） ハイスピードシンクロ・両側：約20mm～3.8m/
片側：約20mm～4.1m

■ワイヤレスストロボ機能

通信可能距離.....................屋内：約20cm～8m、屋外：約20cm～5m
（スレーブ正対位置）

■カスタム機能................9種類（18項目）

■フィルター/フード取り付け

フィルター.........................取り付けリングに58mm径フィルター取り付け可能
フード................................取り付けリングフード取り付け部にET-67取り付け可能（定常光撮影）

■大きさ............................制御部：74（幅）× 125.9（高さ）×97.4（奥行）mm
発光部＋取り付けリング：235（幅）× 90.4（高さ）×
49（奥行）mm
接続コード：約30cm/6.6mm径

■質量................................約585ｇ（本体のみ、電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

ガイドナンバー（ISO100・m）

通常発光

発光量	MR-14EX		MT-24EX	
	両側発光	片側発光	両側発光	片側発光
1/1	14	14	24	26
1/2	10	10	17	18.4
1/4	7	7	12	13
1/8	5	5	8.5	9.2
1/16	3.5	3.5	6	6.5
1/32	2.5	2.5	4.2	4.6
1/64	1.8	1.8	3	3.3

ハイスピードシンクロ（発光量1/1）

発光量	MR-14EX		MT-24EX	
	両側発光	片側発光	両側発光	片側発光
1/125	7.9	7.9	15.9	17.2
1/160	7.6	7.6	14.9	16.2
1/200	7.2	7.2	13.3	14.4
1/250	6.8	6.8	11.9	12.9
1/320	6.2	6.2	11.5	10.6
1/400	5.5	5.5	9.4	10.2
1/500	4.9	4.9	8.4	9.1
1/640	4.4	4.4	7.5	8.1
1/800	3.9	3.9	6.7	7.2
1/1000	3.5	3.5	5.9	6.4
1/1250	3.1	3.1	5.3	5.7
1/1600	2.7	2.7	4.7	5.1
1/2000	2.4	2.4	4.2	4.5
1/2500	2.2	2.2	3.7	4.1
1/3200	1.9	1.9	3.3	3.6
1/4000	1.7	1.7	3	3.2
1/5000	1.5	1.5	2.6	2.9
1/6400	1.4	1.4	2.4	2.6
1/8000	1.2	1.2	2.1	2.3

B タイプカメラとの組み合わせ

Bタイプカメラに装着した場合、MR-14EX、MT-24EXのストロボ機能は、次のようになります。なお、Bタイプカメラに装着し自動調光で使用すると、ストロボの表示パネルに〈**TTL**〉と表示されます。
(* Aタイプカメラでは〈**ETTL**〉と表示されます。)

●Bタイプカメラで使用できる機能

・TTL自動調光撮影
・ストロボ調光補正
・FEB
・マニュアル発光
・後幕シンクロ
・マニュアル発光によるワイヤレス増灯撮影

●すべてのBタイプカメラで使用できない機能

・E-TTL II/E-TTL自動調光撮影
・FEロック
・ハイスピードシンクロ（FP発光）
・自動調光によるワイヤレス増灯撮影
・光量比を設定したワイヤレス増灯撮影

●一部のBタイプカメラで使用できない機能

・EOS 650/620：ストロボ調光補正、FEB
・EOS 750/850：ストロボ調光補正、FEB、後幕シンクロ、ワイヤレス増灯撮影
・EOS 700：〈**Tv**〉モード以外でのFEB

Ni-MH

使用後はリサイクルへ

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のカメラサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツなどもございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社

canon.jp/camera

この使用説明書は、2006年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

CT1-5720-000　　PRINTED IN JAPAN